

令和7年度日本水産学会中部支部大会 シンポジウム
「資源減少と温暖化被害に対応したサバ養殖の革新技術」

日時：令和7年11月30日（日） 13:30～16:05

開催場所：はたらく婦人の家（福井県小浜市）

企画責任者：吉浦康寿・田原大輔（福井県立大学）・
北山和也（ふくい水産振興センター）

参加費：無料（事前の申し込みの必要はなし）

プログラム

1. マサバ・ゴマサバの日本近海における資源量の変動 13:30-14:00
米田 道夫（水産研究・教育機構 水産技術研究所）
2. マサバの種苗生産技術の安定化 14:00-14:30
成田 篤史（マリンテック株式会社）
3. マサバ・ゴマサバのハイブリットによる高温耐性サバの作出 14:30-15:00
吉浦 康寿（福井県立大学 海洋生物資源学部）
4. サバ養殖に向けた不妊化技術と代理親魚利用の可能性 15:00-15:30
矢澤 良輔（東京海洋大学 海洋生物資源学部門）
5. 総合討論 15:30-16:00
6. 閉会（企画責任者 田原大輔） 16:00-16:05

企画の趣旨

近年、日本近海におけるマサバ・ゴマサバの資源量は減少を続けており、本格的な漁獲規制が始まっています。そのため、サバ養殖に必要となる種苗の安定確保は大きな課題であり、とりわけマサバ種苗の生産技術の安定化は、養殖業を支える基盤となる重要な技術です。一方で、地球温暖化に伴う高水温の発生は、養殖現場に甚大な被害をもたらしており、夏季の大量死や成長不良といった深刻な問題が報告されています。こうした環境変動に適応するためには、高温耐性をもつサバの育種や不妊化技術を組み合わせることで、「安定供給 × 品種改良」という新たな方向性を打ち出すことが不可欠です。本シンポジウムでは、サバ資源の現状や種苗生産の安定化に加え、温暖化に適応した品種改良、不妊化技術等の最新の研究成果を紹介し、未来のサバ養殖のあり方について議論を深めたいと考えています。